

教育連携型研修会①「探究・STEAM 教育」研修会報告書

2022年8月22日(月)、名桜大学 SAKURAUM6 階スカイホール A において、北部地区の小・中・高・大学の教員及び高校生、大学生を対象に、「探究・STEAM 教育」研修会を実施いたしました。本研修会は、名桜大学 高大接続研究会が主催し、国頭教育事務所及び北部 12 市町村教育委員会の後援を受けての開催です。その目的は、主体的・対話的・協働的な学びを通して、教員が学習する組織や探究を体感することにより「STEAM 教育の推進」「探究授業の充実」に資することです。これからの社会を生き抜く力として横断的・総合的な学習を通して、よりよく課題を発見し解決していく資質・能力を育成する教育が求められていますが、これらは、これまで教員自身が体験する機会に恵まれなかった指導内容や指導方法であるため、教員は元より生徒、学生にも戸惑いがあることから、必要な知識・技能を身に付け、校種を超えてそれぞれの教育に資する研修を目指しました。

今回は、探究・STEAM 教育の研究・実践者としてご活躍中の森弘達先生（大妻学院大妻中学高等学校探究科主任）を講師にお招きしての研修会でした。

参加者は、午前の部 67 人（対面 45、オンライン 22）、午後の部 20 人（対面 15、オンライン 5）でした。

森弘達先生の研修ということで、中・南部や県外からも 3 人の参加がありました。研修概要は以下のとおりでした。

<午前の部> ①『学習する組織』とは ②「主体的・対話的・協働的な学校・教室」のつくり方(ワークショップ)

時代の変化が激しい現代においては、課題に対して短期的に対応するだけでは、問題は解決せず、全体を見て、中長期的に考えるという「システム思考」が重要であること。相互のつながりに着目し、課題を引き起こしている構造を捉え、未来を洞察したり、未来を創造したりすることが求められること。このため、子どもから大人までが「学習する組織」の理論に基づく『システム思考』を学ぶ重要性、対話によって、課題を引き起こしている構造を捉え、対話を繰り返し、協働して課題を解決し、未来を創造することができるようになることの重要性。

ピーター・センゲ(マサチューセッツ工科大学教授)やクリス・アーギリス(ハーバード大学教授)が生み出した「学習する組織」の概念の紹介、「教える」組織から「学ぶ」組織へ、「学習する組織」の 3 つの柱「①複雑性を理解する力、②共創的に対話する力、③志を育成する力」と 5 つのディシプリン「①自己マスタリー、②共有ビジョン、③システム思考、④メンタル・モデル、⑤チーム学習」があり、「学習する学校」や「学習する教室」の説明。ワークショップで様々なツールの紹介

<午後の部> ① 探究学習のはじめ方 ② 探究ワークショップ「探究を体感してみよう」「STEAM って何？」

最初に、大学入試問題の新傾向として、慶應義塾大学入試、京都大学総合人間学部の特徴入試等の紹介
本題で、①探究って何を学ぶのか、探究を通して身に付ける資質・能力（知識・技能・思考力：深く考える力・判断力：主体的に考える力・表現力：対話的に考える力・モチベーション・つながる力）についての説明。

大学や企業が求めている「探究」型人材として求められる力として「①問いを持つ、課題を発見する。②人や社会とつながり、対話し、協働する。③さまざまな組織に帰属し、複数の専攻を持つ。」ことが不可欠である。

探究学習は、「人に出会い、刺激を受け、問いをもつことが『探究』の第一歩」であり、世界を、未来を変える。

おわりに、木村堅一学長補佐（大学教育質保証担当）より研修の感想とお礼のことがばが送られました。

1. 社会が急激に変化しているに伴い、大学や高校の教育のあり方も変化している。
2. 大人は、子どもと対話し、「将来のビジョン（Future）」を共に創っていくことが重要である。
3. 子どもたちに必要な資質・能力を身に付けさせるためには、私たち教員も勇気を出して、総合的な視点から探究活動に取り組まなければならない。

本日の研修会より学んだ上記のことを教員間で共有し、子どもたちより 1 歩先んじて行動し、背中をみせることができればよいと思います。子どもたちとの信頼関係をつくり前進していきましょう。

森先生には今後ともご教示いただきますようお願いいたします。本日は貴重な研修会となり、ありがとうございました。



研修会の様子（2022.08.22）

<参加者の感想より一部抜粋>

- STEAM 教育とは何なのか、実践事例を聞く機会がなかったので、とても勉強になりました。
- 今後の「学習する組織」づくりを考える良い機会となりました。学生も含めて、一緒に話し合う、考える場があり有意義な機会でした。ありがとうございました。
- 現場が大変と言っているだけではなく、解決法を探りながら様々なことに挑戦していかなければいけないと改めて思いました。これからの社会に生きる生徒のために、教師が見せるべき姿は、変革に挑んでいく姿ではないかと思います。
- 探究学習、STEAM学習など興味はあったが実践内容について分からないことが多く、今回の研修会を受講しました。森先生の研修の中で、冰山モデルやループ学習など初めて聞く言葉が多く、多くの刺激を受けました。あの場で理解できたことは少ないかもしれませんが、もう少し自分なりに調べて落とし込めるよう努力したいです。
- これからの日本社会に必要な人材、人材育成に向けてどのような教育が必要かを知ることができました。それと同時に、そのような教育をしていくための整備(カリキュラムマネジメント・人材確保・教員の数・家庭や地域の教育力)が全然足りない事も感じました。
- 森先生の豊かな言葉、知見、例え話を通じて『学する組織』の捉え直しをすることができました。また、森先生自らが学び続けているお姿から、私自身がせっせと勉強していかなければと身の引き締まる思いでした。はるばる東京から訪れましたが、沖縄の先生や学生とも交流する機会があり、大変貴重な時間となり、満足しております。素敵な機会を提供していただき、ありがとうございました。
- 「学習する組織」について興味があり参加いたしました。とても難しいものを非常にわかりやすく、コンパクトに説明していただいたので今後自分で学習する際の手がかりとしたいと思います。
- 改革の趣旨は世界に通じる科学力技術力の発展のはずですがそのためには大学、高校とも人材不足でございます。大学にあっては研究費の増強、高校にあっては授業作り時間確保のため教員増を望みたいとろです。最高峰の頭脳陣は海外に流出しておりますし最新の論文はすべて英語圏です。
- 予算も少ない中で、参考書を購入するのも厳しいと思います。学校全体の体制を急に变えることも現実的に不可能です。実際に今の沖縄県の状況で実践するには、どのような取り組みから始めたら良いのでしょうか。
- 探究学習やSTEAM学習は学習者に相応の学力が事前に求められることになると思います。実際の現場では基礎的な学力が不足しているケースも多々みられる中で、そういった生徒のとっかかりになるような教材について研究してみたいと思います。
- 一般参加も可能なオープンなオンラインでの研修会、教育に関わる多様なテーマであれば是非参加させていただきたいです。

ご参加いただきました皆様、準備・運営にご協力いただきました教員養成支援センター、北部教育研修センター、リベラルアーツ機構の皆様にご心よりお礼申し上げます。

2022年8月29日（月） 高大接続研究会（高安、木村、立津）